



【1-1. 美祢市化石館】

少年時代から自然が大好きで、淡水魚以外は広く浅くですが、昆虫や岩石・鉱物などの図鑑に夢中で見入っていました。

小学生のころ、近所に石集めをする高校生のお兄ちゃんがいて、よく教えてもらったり、不要になった鉱物や化石を貰っては菓子箱に入れて標本にしていました。小学生のころから、「磁鉄銅鉱石」「玖瑪鉱」「硫砒鉄鉱」のように鉱石の名前を漢字で書くことができ、舌を噛みそうなラテン語の化石名を教わり暗記していた変な子供でした。最近、加齢により新しいものが覚えにくくなってきましたが、当時覚えた鉱石や化石の名前は今でもはっきりと覚えています。中学生になると、岡山県内の鉱山や廃鉱跡に採集に行くようになりました。今、コロナ禍で外出が制限されている中、週末は弁当片手にカメラを持って誰もいない山中を徘徊しています。

地方都市に行くと、美術館、博物館、お城、神社仏閣、動物園などなど興味は尽きません。中でも博物館があると必ず立ち寄ります。今回県内の博物館のうち、私の独断でレア度・マニア度の高いものをいくつかご紹介したいと思います。



院長 形成外科
青 雅一

1. 美祢市化石館

美祢市中心部の国道沿い(化石館通り)にあります。化石に特化した博物館で、化石の宝庫美祢市の石灰層や黒色葉理泥岩層の化石を中心に、「脊椎動物」「アンモナイト」「昆虫」の3つのテーマを中心にジャンルごとに展示してあります。入館料は大人100円、小中学生50円とお得です。しかもほとんど人がいないので、展示ケースにへばりついてじっくりと見学できます。「クラドレビス(シダ類)」「ネオカラミテス(トクサ類)」「フズリナ(原生動物の一種 紡錘虫)」「ウミユリ(棘皮動物)」とかいう名前を見て少年時代を思い出し、心躍らせる爺は私だけでしょうか？

道路を挟んで向かいの美祢市歴史民俗資料館も併せて訪れるとよいでしょう。(写真1-1、1-2)



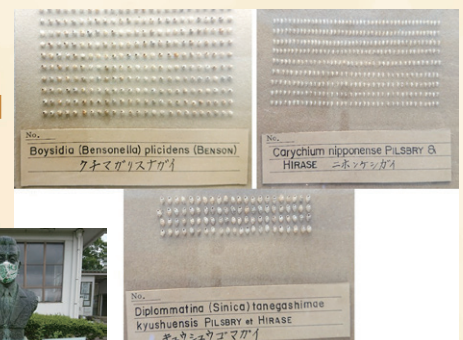
【1-2. ナウマンゾウの骨格標本やアンモナイトなど展示多数】

2. 美祢市立秋吉台科学博物館

秋吉台展望台の向かいにあります。車では大回りしないと行けません。事務所に若い学芸員の方が1名いて、入館無料です。秋吉台の外れに位置しマニアックであるためほとんど入館者のない秘密スポットです。

博物館の前には、「秋吉台石灰層の逆転構造」を発表された小澤儀明博士の像があります。石灰層の化石が多く展示してあります。また、陸生の貝類の標本もたくさんあり、そのマニアックさに驚きます。小澤博士のことやその理論についても詳しく説明されています。(写真2-1、2-2)

【2-2. 陸生巻貝(2mmくらい)】



【2-1. 美祢市立秋吉台科学博物館】



3. 福田貝館

山口市のはずれ徳地の島地の旧街道沿いにある小さな貝の博物館です。医師である福田氏が数十年にわたって世界中から収集した 3500 種の貝類の標本が展示してあります。

先日訪問したら閉館しており、呼び鈴にも応答がなく、固定電話も使われていません。3 年前までは、呼び鈴を押せば高齢の女性が開けて下さり、歩行器にすぎた福田氏が現れたとの記事があります。私はこちらには入ったことがなく、誰かが肩代わりして再開することを願うばかりです。〈写真 3〉



【3. 福田貝館】



【4-1. 長登銅山文化交流館（右下は鉾滓）】

4. 長登銅山文化交流館

美祿市美東町の国道から少し入ったところにあります。銅の産出量が少なかった奈良時代、日本最古の銅山であるこちらの鉾山で精錬した銅が奈良に運ばれ大仏になったことが分かっています。坑道まで約 1 キロの道のりを歩くと、途中にたたら跡があり、鉾滓（スラグ：銅の場合“からみ”という）が落ちていて、拾うとずっしりと金属の重みがあります。鉾山は廃鉾になっていますが、今でも発掘が進められています。山頂ではクマが出没すると書いてありました。

係の人に聞くと、「お客はパラパラある」そうですが、私が訪れたときは貸し切りで、「ビデオの電源入れますから 2 分ほどお待ちください」くらいヒマでした。夏休みなどは団体で申し込めば、銅の精錬・鋳造体験ができます。大人：300 円 小中学生：150 円 〈写真 4-1、4-2〉

【4-2. 実験炉と坑道入り口】



5. その他

■ つのしま自然館

角島特有の動植物、貝類、魚類などいろいろ展示してあります。海岸べりなので、砂が入らないようにスリッパに履き替えて入ります。事務室のおじさんが橋の建設やクジラのことなど説明してくれます。漁船に衝突して死んだクジラの骨格標本の忠実なレプリカが天井に吊り下げられています。実は、ミトコンドリア DNA の検索結果から新種のクジラ（ヒゲクジラの 1 種）だったため本物は国立科学博物館に収蔵されています。

本種は *Balaenoptera omurai* (標準和名：ツノシマクジラ) と命名され、英国の科学雑誌「ネイチャー」(2003.11.20) に新種として発表されました (Wada *et al.*, 2003)。入館協力金：200 円 (高校生以下は無料) 〈写真 5〉

■ 萩博物館

萩博物館本体の構造は鉄筋コンクリート造ですが、軒先には木材を使用するなどして、伝統的建造物群保存地区にあって違和感のない外観となるよう、武家屋敷の特徴になっています。吉田松陰、高杉晋作をはじめ幕末維新関連の実物資料や、萩の町の歴史と変遷を示す古地図・古文書など、歴史ものの展示物が多いです。玄関横には、寄付を集めて昭和 7 年に 8600 円で購入した消防自動車展示されています (当時の萩市の予算の約 2%)。靴を履き替えて入ります。入館料：一般 520 円 高校・大学生 310 円 小中学生 100 円

【5. つのしま自然館】

